

学校訪問記 特色ある教育を行う学校

和の心で世界とつながる女子教育

学校法人和洋学園
和洋国府台女子中学校・高等学校

和洋国府台女子中学校・高等学校

学校法人和洋学園は、明治30年、和洋裁縫女学院として創設されました。和洋国府台女子中学校・高等学校は、千葉県市川市国府台にある江戸川を望む緑豊かなキャンパスに、同法人が設置する和洋女子大学とともに、中・高・大連携のキャンパスとして教育を行っています。



緑豊かな国府台キャンパス

和洋国府台女子中学校・高等学校では建学の精神である「女性の自立」を發展させ、「凜として生きる」女性の育成を教育理念として掲げ、その具現化のために様々な教育改革に取り組んでいます。

【コースについて】

高校には普通科とフアッションテクニクス科があり、普通科では進路の希望に対応した2つのコースを設置しています。

・普通科 特進コース
国公立や難関大学入格を目指すコース。週2回の7時間授業やセミナーハウスでの勉強会宿等を行う。

・普通科 進学コース
指定校推薦や和洋女子大学への内部推薦が可能なコース。
・フアッションテクニクス科

和洋学園の伝統である、服飾技術を習得する科。3年生の学園祭では生徒が企画して作品発表会を開催する。

【英語教育】

国際社会で通用する英語力を身につけた生徒を育成するために、中学校では「和洋ラウンドシステム」という学習方法を導入し、平成29年度から本格的に運用を開始しました。

このシステムの特徴は、同じ教科書を5回繰り返して学ぶ点にあります。これは、子どもが母国語を学ぶときのように、インプットの量を増やすことにより自然に英語に慣れさせる学習方法

法です。各ラウンドの授業は次のように行われます。

- 1 教科書を一切開かず、音声とイラストだけで内容を理解する。
- 2 リスニングを中心に行い、英文の並べ替え作業を行う。
- 3 初めて教科書を開き、音読を繰り返す、単語の確認も行う。
- 4 難易度の高い音読、虫食いプリントや文法も学ぶ。
- 5 イラストを見ながら自分の言葉で教科書の内容を説明する。

この学習方法の利点は、耳で聞いた内容をそのまま発音するため、間違いを気にせず積極的に授業に参加できるという点にあります。

導入にあたっては、ラウンドシステムを最初に始めた、横浜市立南高等学校附属中学校へ視察に行き、担当教員がラウンドシステムの専門家である東京芸大学の金谷名誉教授による研修を受け、導入まで時間をかけて準備を行いました。

他の学校で行われるラウンドシステムとの違いとしては、英語の授業の中で、クラスを3分割して、10人程度の少人数によるネイティブの教員との英会話を行っています。ネイティブ教員は5名在籍し、フルタイムの教員もいるため、授業以外にも校内で英語を使う環境が整っています。

導入による効果としては、英検の合格率について、以前まで行っていた対策講座を実施しなくても同程度の実績があったことや、生徒が中学1年の2月に行う発表会でのスピーチで、英語力の向上を実感できること等が挙げられます。

高校では、まだ、ラウンドシステムにあつたテキストがないことから導入はしていませんが、単元が終わることとその内容を生徒に英語で説明させる等、一部にラウンドシステムの要素を取り入れています。



和洋ラウンドシステムによる授業

英語に関するその他の取り組みとしては、中学生と高校の1年生を対象に、オーストラリアの姉妹校から来た教師と、佐倉にあるセミナーハウスで冬休みの3日間、英語漬けの宿泊研修を希望者に行っています。海外に行かなくても、国内で英語を集中して学べる貴

重なる機会として活用されています。

海外留学については、中学3年生から高校2年生の間にオーストラリアの姉妹校での語学研修や、英国とイタリヤでの文化研修を希望者に対して行っています。

【アクティブラーニング】

各教科で以前から、アクティブラーニングの要素を取り入れており、社会科学の小論文の科目では以前から、論文を書くだけでなく、ディベートやプレゼンテーションを行うなど、工夫した授業を行っています。

アクティブラーニングの考え方は授業以外でも取り入れられています。生徒会の活動を例として挙げると、校則の変更を要望する際に、各クラスが、改正するメリットや問題点を論理的に説明する企画書を作成して発表し、その中で優秀なものを生徒会から学校側へ提案する取り組みを行っています。

このように勉強だけでなく、あらゆる活動で発想し、考えられる環境があります。

また、平成31年度から始まる「探究」の学習への対応として、生徒が発表を行う際に、5W1Hを踏まえた言語を適切に使用するための指導を、教員が行えるように、各科目の教員を、つくば言語技術教育研究所のセミナーに参加させて言語技術の指導方法を習得する取り組みを行っています。

【日本文化を学ぶ授業】

グローバル化に対応した国際人となるためには、英語が話せるだけではなく、日本の文化を知り、日本人としてのアイデンティティを確立する必要があるとの考えから、中学と高校で、日本文化を学ぶ授業を行っています。

授業は礼法、華道、邦楽等、様々なものがありますが、特に、茶道を中心として学んでいます。茶道は、コミュニケーションから生まれた文化であり、相手への思いやりの心が含まれていることがその理由です。また、茶道には華道、書道等の全ての日本文化が含まれています。

校内には授業で使用できる茶室があり、茶席での作法などを学び、礼儀作法や豊かな素養を身につける教育を行っています。



校内の茶室「洗心亭」で茶道を学ぶ

【高大連携の取り組み】

平成29年度に中学校を国府台キャンパスに統合したことにより、中学・高校及び和洋女子大学が共に学びあうキャンパスが完成しました。この利点を生かして大学と中学・高校の間で様々な連携を行っています。

高大連携プログラムとして、放課後や土曜日に、高校生が和洋女子大学の講座の中から関心のある科目を大学生とともに履修し、内部進学した際には、単位として認定しています。

その他に、高校では大学教員を講師として、特別講座の開講や、大学の服飾造形学科の卒業制作（フアッションショー）をフアッションテクニクス科の生徒が見学しています。また、中学校では、調理実習指導を大学で実施する等、大学と連携した様々な活動を行っています。

一方で、大学では看護師や管理栄養士を目指す学部で、理系の知識が必要となりますが、補習が必要な学生に対して、高校の教員が補習教育を行うといった連携も行われています。

大学への内部進学については、普通科の進学コースに内部推薦の制度があり、高校での成績と面接によって基準を満たした生徒が、例年約2割進学しています。

今後の取り組みとしては、高大の連携をさらに進め、「高大7年制」のクラスを設置し、高校の授業の中で、大学

の授業を受けて単位を取得し、大学進学後は、前倒しによる期間を活用して海外留学やボランティア等のキャリア形成を行い、社会に出て役に立つ人材を育てる、という新たなシステムの構築を目指しています。



同キャンパス内にある和洋女子大学

【取材を終えて】

中高一貫校は、高校入試の負担が少なく、高校で必要な学力を中学で計画的に身に付けることができるというメリットがあります。和洋学園では、それに加えて、大学も同一キャンパスにあることにより、大学の人材や施設も活用して連携を行っています。

英語教育や日本文化教育によって「凜として生きる」という生徒像の具現化のために改革に取り組んでいる様子が窺えました。

（取材）私学経営情報センター